

「夢の神通回廊」を目指して

サンアントニオ・川リバーウォークの街誕生物語 ⑧

リバーウォーク成功の鍵は 商業施設と公園環境との調和

神通川直線化100年記念、「川と街づくり国際フォーラム」開催から5年。「夢の神通回廊」プロジェクト実現に向け、アメリカ・サンアントニオ市のリバーウォークなどの公園管理者、リチャード・ハード氏の講演内容を連載する第8回！

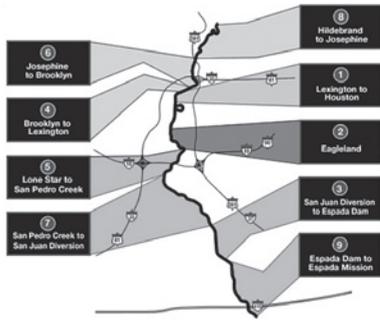


未来

環境もビジネスもより良くこれからも



数キロに渡って、可能性を秘めた川が、都市の中心を流れる。それが、パセオ・デル・リオです。

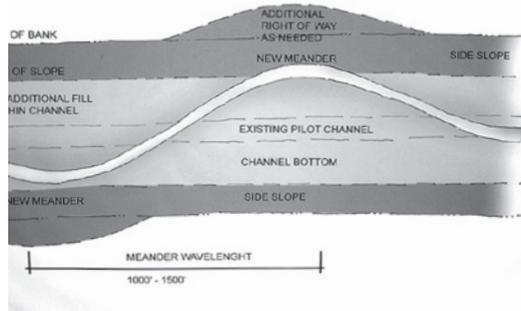


現在、仮設計段階の10年計画は、中心地の南北に広がる、200kmあまりの流域を保存し、その利用価値を高めることが目

的では、サンアントニオ川改修計画の168億円は、市、軍、連邦政府が投資します。対象地域は、川に沿って65km、ヒルデブランド通りから、レキシントン通りまで、ミュージアムリーチと呼ばれている地域と、145kmのサウスアラモ通りから、ミッシェン・エスパダ通りまでの、ヒストリックリーチ、これが中心地です。この改修計画の目的は、川の流れを安定させ、メンテナンス可能な治水対策を進める一方、環境を考え、川本来の蛇行を復元し、200kmに渡って、アメニティと、レクリエーション施設を建設することも含まれて



います。川を復活させるため、地域の総力を結集した努力は、レクサー郡サンアントニオ市サンアントニオ川協会が、サンアントニオ川監視委員会を設立した、1998年に始まります。委員会



に任命された22名の市民代表は、計画、設計、プロジェクト管理、建設、そして必要な資金集めを監視する責任が与えられました。加えて委員会は、市民の声を計画に反映させるため、公開フォーラムを開催します。監視委員会は、

毎月ミーティングを持ち、前市長のリラ・コックウエルと、建築家イルビ・ハイタワが共同統括しています。地元資金は、市の設備改修基金と、郡の洪水税から出ています。プロジェクトリーダーたちは、河辺のアメニティ設備の向上に、民間セクターの協力を仰いでいます。

ここがミッションリーチ地区です(写真下)。1960年代から70年代にかけて、ヒストリック・ミッションリーチ地区の大部分では、植物などの自然が失われました。それは治水対策のための水路の直線化など、工事のためでした。川はこの部分、とても安定して流れています。

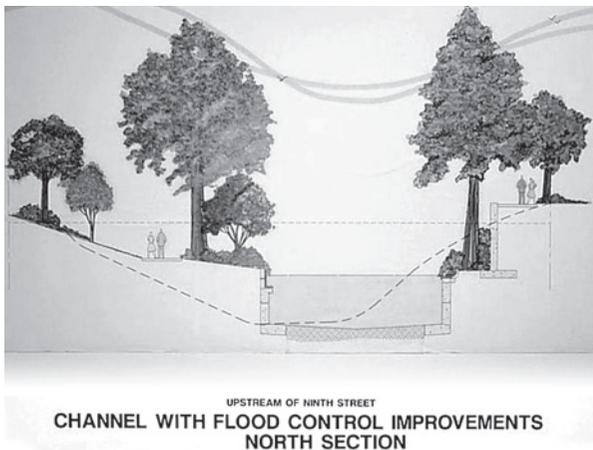
ヒストリック・ミッションリーチ地区の改修工事は、生態系の保存に主眼を置き、川



サクラパックス(株)

の流れによって形成される地形を研究した技術によって、自然な蛇行した流れを復元するものです。この技術で川本来の流れを復元し、治水対策強化、浸食防止、レ

クリエーションと、野性生物に適した環境の創造が目的です。他にも、ハイキング、サイクリングコースの建設、木々や植物の再生、野性生物棲息地の形成、カヌーなどのレクリエーション施設の設置、そしてミッショントレールに沿った、歴史的に重要な地域をリンクさせることが目的としてあげられます。



り変えられています。65キロに及ぶその主要な部分は、市のプランケンリッジ公園の中にあり、また、土手に沿った未開発の土地は、川のかつての姿を残していま

す。 ミュージアムリーチには、自然が残される一方で中心地に近いため、地域の商業、住宅開発が進んでいます。設計のコンセプトは、



治水対策、及び歩道とアメニティ施設の建設を通して、都市開発の基礎を築くことです。



提案された改修事項には、地上レベルからの通路、リバーウォークの延長、植物、魚類の生息環境、ミュージアム・リーチ地区と、リバーウォークを結ぶ遊覧船運航の可能性を探ることが含まれます。この土手の上の方に、ビジネスを誘致するための努力が払われています。

リバーウォーク拡大計画が進むにつれ、既存のデザイン、監視、規則が不適切であることが判明しました。規則は、拡大計画200kmの流域をカバーする、特別区を創設するために改正されました。拡大計画に含まれる地区の意図としては、川の保全、保存、利用価値の向上のために規則が作られること、そして河辺の財産に関するデザイン基準や、ガイドラインが作られることによって、川の景観が改善されることが挙げられ

ます。サンアントニオ川には、ユニークで貴重な自然があり、文化があり、歴史的遺産もあります。それは、様々な近隣地域、文化施設や公園を結ぶことによって、サンアントニオ全体を物理的につないでいます。この地域は、地形的に分けられた6つの地区をカバーするものです。それは、北はヒルデブランド付近から、南はミッドジョン・エスパダ通りや、市の南端までをさします。

成功の鍵

観光都市、サンアントニオの魅力を作ったのは市民



計画と資金

リバーウォークの成功の鍵、そ



の歴史をひもとくと、サンアントニオ川とその河畔に立てられたこの街に対する市民の深い愛情は、19世紀の終わり頃から顕著になりました。そこには、多民族的な習慣、文化、そして町並みを大切にすることがあります。

都市が発展するにつれ、常に市の中心部と、歴史的地域の発展について、活発に議論が行なわれてきました。失敗もありましたが、議論の末の妥協案によって、被害は最小限にとどめられてきました。議論が進まず、支援がそのまま残されたこともありましたが、リバーウォークの発展の経緯には、常に、行政から、ビジネスから、市民から、強い権威力を持ったリーダーたちの存在があります。彼らが、長年に渡ってビジョンを示し、エネルギーを傾け、バランスを保ちながら、開発の成功に寄

与してきたのです。

サンアントニオ市は、計画をリバーウォークの可能性を探るものとして利用してきました。時には、資金も、権限もなく、ただ行動を起こすため、計画を模索しまし

た。市と、市民に評価される計画であれば、お金は後からついてきます。時には10年か、もつと時間がかかるかもしれませんが、大体において資金は集まります。でなければ、計画は不適切であったということ。そして、計画は、その中心的価値を失わないためにも、極めて重要です。



建築コンサルタントが、ドイツニーランドのようなアトラクションを、1960年代の始めに提案した時、ただちに却下されました。市民は、計画段階から積極的に参加してきています。彼らは多大な貢献をしています。サンアントニオ市は、リバーウォークの拡大資金を集めるため、可能な限り、ありとあらゆる方法を使っています。公の資金は、川周辺の商業地域の開発をうながすよう、民間からの資金集めに効果的に使わ

高い木々に、青々と茂った緑が安らぎを与えてくれる

れています。洪水対策資金は、洪水対策に使われるほか、公園のような環境にするため、アメニティ施設の建設にも使われます。

リバーウォークの魅力には、様々な要素があります。歴史を残す建物、地上から5m程低い環境、いつも新しい発見を予感させる、曲がりくねった川。しかし、20年間リバーウォークに関わってきて、その商業的成功について言えることは、レストランや、店の背景にある、公園環境が成功の鍵の一つであるということです。高い木々、青々と茂った緑が安らぎを与え、川辺を都市の雑踏から遠ざけてくれるのです。④